視察研修報告

総務厚生常任委員会・教育経済常任委員会

議員研修をふりかえる

新型コロナウイルスの蔓延により、遠隔地での視察研修ができぬまま2年が過ぎる。過去の研修のうち、特に印象深かった場所を振り返り、今後に活かしていきたい。

【平成22年11月】

群馬県川場村

都市農村交流の成功例

関東一のうまい米生産

群馬県の東部、赤城山の北側に位置する人口３６００人の小村である。

川場村役場会議室にて

昭和56年に東京都世田谷区と「区民健康村相互協力に関する協定」を結び、区民２００名が宿泊できる2施設を開設し、互いの友好を深めている。

都市農村交流の成功例として川場村・世田谷区を訪問し、31年に及ぶ交流の中から、そろばん勘定では説明できない家族のような絆を垣間見た。

リンゴやコメなどの主要農産物はオーナー制度によって、直接区民に販売されており、流通の手に委ねられることが稀であるため、ＪＡが村から撤退したそうである。

用水は民家の無い、村のシンボルでもある武尊山の麓から、直接圃場へ引き込む水で作られた関東一のうまいコメを生産していた。

【平成23年6月】

宮崎県西米良村

若者の取り込みに力を入れる

飲んべえの村

宮崎県で最も小さい村である西米良村は人口１３００人である。

若者の定住対策費は一般会計の6・7％にも上り、平成7年から日本型ワーキングホリデーに取り組み、若者の取り込みに力を入れている。

今では本町も行っている定住対策は、平成23年時に独身住宅の家賃7千円が8戸、1万円が8戸、結婚報奨金20万円（92組に交付）、出産祝金（第1子5万円、第2子10万円、第3子30万円、以降10万円ずつ加算）、未就学児を養育する親に年額9万6千円を支給、小・中学生生の通学バスは無料、給食費月額１７００円を助成、修学旅行助成、高校へ進学すれば寮費月額3万円助成などを行っていた。

小さな村なのに、どんな小さな商店にも飲酒コーナーがある、とても飲んべえな村であった。

村内の小川城址公園内「民話の宿」で

【平成24年7月】

福井県越前たけふ市

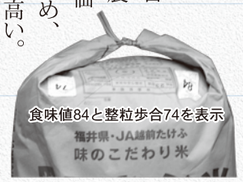
単独農協として頑張る

元気な農家を

全農から脱退し、単独農協として農家に寄り添う、越前たけふ農協の冨田隆組合長に、米のブランド化について聞いた。

武生は古の文豪である紫式部の生地である。ゆえに米は「しきぶ米」という。特徴は食味値と整粒歩合を米袋に表示し、ランクごとに価格が設定されていることだ。良質米は高値で取引し、そうでないものはそれなりの価格で取引している。ラック式低温貯蔵庫で1トンずつコンピューターで管理されており、農家の努力が米価に反映されるため、モチベーションが高い。

兵庫県豊岡市からコウノトリが飛来したことがきっかけで、無農薬・無化学肥料に取り組む集落もあり、組合長の放つエネルギーに感化された元気な農家の姿に感銘を受けた。



【平成24年7月】

石川県羽咋市

スーパー公務員の手法に感動

限界集落再生

限界集落を再生したスーパー公務員高野誠鮮氏に会いたくて、能登半島の付け根である羽咋市を訪問した。

高野氏は前日にヨーロッパ出張から帰ったばかりということであったが、疲れた様子を見せず、力強い説明を受けた。隣接する農産物直売所の皆さんは、島根からの来客に興味津々であった。

羽咋市神子原地区の米をローマ法王に献上し、国内のクリスチャン垂涎の米へと変貌させた顛末を聞き、常人の成せる業でないことを悟り、その発想力に度肝を抜かれた。

人工衛星で食味解析を行い、不合格圃場の米は販売拒否、自然農法米でワインを醸造し、パリのレストランへ売り込むなど、将来の農業を熱く語れる集落を目指す。忘れられぬ人との出会いがあった。

地区民で経営する神子原農産物直売所

【平成27年12月】

京都府京丹後市

地域医療への理念を学ぶ

久美浜病院

平成27年2月に飯南病院と姉妹病院協定を締結した市立久美浜病院を視察した。

赤木院長から、医師間の支え合いによる意識改革、病院と高齢者施設の協働、医科と歯科の一本化などの説明を受け、その地域医療に対する理念と強い思いを感じた。

飯南病院も、地域包括医療・ケアシステムの構築を目指し推進している。

両病院の交流が、医療、介護分野の意識改革やレベルアップにつながり、住民が安心して生活できる地域になることを確信した。

地域ケアフォーラムに参加いただいた赤木院長

【令和2年2月】

広島県神石高原町

生活交通対策を研修

タクシー助成制度

神石高原町では、平成16年３町1村での合併以降数度にわたり見直しが行われている。タクシー利用事業では、福祉タクシーと予約制の乗合タクシーを運行したが、乗合タクシーは利用者満足度が低く、定時定路線に変更した。それでも利用者減が続き路線型をあきらめタクシー助成制度を開始した。

この研修で得られた知見は、令和2年度より始まった外出支援タクシー助成事業の検討に活かされた。

町役場で職員から説明をうける